

研究・調査報告書

報告書番号	担当
547	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Interactions between migraine and tension-type headache and alcohol drinking, alcohol flushing, and hangover in Japanese. 日本人における片頭痛、緊張性頭痛と飲酒、アルコール潮紅、二日酔いと相互作用	
執筆者	
Yokoyama M, Suzuki N, Yokoyama T, Yokoyama A, Funazu K, Shimizu T, Shibata M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Headache Pain. 2012 Mar;13(2):137-45.	
キーワード	
アルコール、アルコール潮紅、アルデヒド脱水素酵素-2、二日酔い、片頭痛、緊張性頭痛	
要 旨	
<p>目的： この研究の目的は頭痛の病型と飲酒・アルコール潮紅・二日酔いとの関係を調査することである。</p> <p>方法： アルコール消費は、キャリアでアルコール潮紅や二日酔いに感受性をもつ非活性型アルデヒド脱水素酵素-2(ALDH-2)の存在により抑制される。我々は東京において健康診断を受けた5,408名(男性2,778名/女性2,630名)のうち、風邪やアルコールによる二日酔いに関連しない頭痛を経験したことがあると報告した2,577名(1018名/1559名)を対象とした横断研究を行った。非活性型ALDH-2の存在を同定でき90%以上の正確な感度と特異度を持つ、“コップ1杯のビール飲酒後の顔面潮紅が今までにあったかどうか”を尋ねるアンケートを行った。</p> <p>結果： ICHD-IIクライテリアに基づいて、419名(75名/344名)が片頭痛、613名(249名/364名)が緊張性頭痛と診断された。残り1,545名(694名/851名)の頭痛持ちの人の頭痛をその他の頭痛というカテゴリーに分類した。今までにアルコール潮紅を経験した緊張性頭痛者よりも、そして潮紅のカテゴリーに関係なくその他の頭痛者よりも、片頭痛の対象者では飲酒の頻度が少なかった。緊張性頭痛の者とその他の頭痛のある者の間には、飲酒頻度にこのような違いは観察されなかった。今までに潮紅があった者は、今まで一度もなかった者よりも飲酒頻度が少なかった。また、男性の片頭痛者が緊張性頭痛やその他の頭痛の者よりも飲酒を避ける傾向は、潮紅を経験したことのない者においてよりも今までに潮紅があった者において、より強かった。潮紅のある者と女性は、頭痛の型に関係なく、潮紅を経験したことのない者や男性よりも二日酔いに対して感受性が高かった。潮紅を経験したことのない者の中で、片頭痛の女性はその他の頭痛のある女性よりも二日酔いに対する感受性が高かった。</p> <p>結論： 日本の片頭痛者は緊張性頭痛者やその他頻度が少なく軽い頭痛の者に比べて飲酒頻度が少ない。飲酒、アルコール潮紅、二日酔いにおける相互作用と頭痛は頭痛の型や性別によって異なり、これにより頭痛、特に片頭痛の者が飲酒を避ける傾向にある理由を部分的に説明できると思われる。</p>	